

シンガポール自然保護区

シンガポール駐在員事務所
島 宗辰

高層ビルが立ち並ぶ街がシンガポールの代表的なイメージですが、政府は都市化以外にも、公園等の自然整備にも力を入れています。シンガポール植物園（Singapore Botanic Garden）やガーデンズ・バイ・ザ・ベイ（Gardens by the Bay）はガイドブックにも出ており、良くご存知だと思いますので、今回はシンガポール自然保護区、特に私が最近訪れたスンゲイブロウ自然保護区についてレポートします。

シンガポールには 4 つの自然保護区が制定されており、湿地・海岸・原生林とそれぞれの特徴をもった熱帯雨林の動植物を観察することが出来ます。

自然保護区の名称	ロケーション	特徴
スンゲイブロウ	最北端の湿地帯	・ マレーシアとの国境付近に位置 ・ マングローブ等の植物やワニ・オオトカゲ・カブトガニ等が観察できる
ラブラドル	南側の海岸地区	・ バードウォッチング、釣りが楽しめる ・ 旧イギリス軍砦・大砲等の戦跡あり
ブキティマ	中心部の原生林地区	・ シンガポール最初の自然保護区 ・ ブキティマ山（シンガポール最高峰：標高 163M）
セントラルキャッチメント	中心部の原生林地区	・ ブキティマ自然保護区に隣接 ・ 自然遊歩道でトレイルランが楽しめる

スンゲイブロウ（マレー語でスンゲイは川、ブロウは竹を表す）はマレーシアのジョホールバル州を対岸に臨む河口の湿地帯に位置し、潮の干満によって大きな干潟が出現し、様々な生き物を見ることが出来ます。園内は 1 周約 5 km の道のりですが、変化に富んだ遊歩道は時間を忘れさせてくれます。マングローブの森の中に「ワニに注意！」という看板がいくつかあるのですが、運がよければワニに遭遇できます。その他、遊歩道沿いにはオオトカゲ（至近距離まで近寄らない限り逃げ出しません）、干潟にはトビハゼの一種がいる等、大自然を満喫できること間違いありません。



自然保護区はシンガポールの中心街から車で 30 分以内の距離にあります。疲れた心身をこの大自然の中で癒すことにより生産性を向上させ、シンガポールは大きく成長してきたのではないのでしょうか。



【マングローブ】



【大きな干潟】



【オオトカゲ】

写真：筆者撮影

(2018 年 1 月 15 日現在) 1801